

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号: 3 事業名: 県民コミュニティーカレッジ事業

補足説明

説明者職・氏名	説明内容
<p>課長・深澤 宏幸</p>	<p>追加の資料を提供させていただく。</p> <p>第2回アドバイザー会議において、先生方から何点かいただいた意見の中の一つとして、当事業は高度な内容を扱うべきであるが、趣味的な内容の講座が見受けられ、本来の趣旨からはずれているのではないかと、この意見について、補足説明と、当課の考えを述べさせていただく。</p> <p>既にお配りしてある資料1には講座名だけが記載されていたが、本日お配りした資料は、平成27年度に開催した講座の概要を細かくまとめたものである。この中には、内容の検討が必要な講座もあると思うが、全体的に、高等教育機関という立場の中で、専門性を活かした講座が提供されていると考えている。</p> <p>繰り返しになるが、この事業は一般県民を対象としており、大学が行った研究成果や大学が持つ様々な専門的な知識など、高度な情報を分かりやすい形で提供しており、事業の目的に沿って実施していると考えている。</p> <p>事前調査においても説明したが、県は生涯学習振興法において、生涯学習の推進に努めることが記されており、県の総合計画の中でも、様々な教育機関と連携した学び直しの機会の創出や、多様な学習機会の提供を進めていくこととしているので、今後も当事業を実施していきたいと考えており、また、様々な形で生涯学習事業を実施していきたいと考えている。</p>

再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
<p>小口アドバイザー 五味アドバイザー 諸平アドバイザー</p>	<p>なし</p>		

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 3 事業名: 県民コミュニティーカレッジ事業

アドバイザー	評価区分	評価内容
諸平アドバイザー	「要改善」	生涯学習という面で県民のニーズに応えるため、大学の持つ専門的な知識や人材などの機能を活用した講座を行っていると思うが、ひとつの講座に数名しか参加がないなど参加人数に非常にばらつきがある。事業の終期を決めて、常に内容を見直すことが必要であるため、改善を求める。
小口アドバイザー	「要改善」	様々な大学で良い講座が開催されているが、県民への伝え方が不十分という印象を持った。大学によってテーマの取り上げ方や参加人数が相当違う中で、原因をどう見るか、対応の問題なのか、県民のニーズがあるのかどうか、参加人数が少ない場合には、なぜか、PRの仕方が悪かったのかなど、様々な問題があると思うので、その辺のばらつきをどうやって直していくか。大学コンソーシアムの事業として、大学間の連携によって良いものを生み出していく必要があると思うので、その結果として必要な講座を見直して取り組んでもらいたい。
五味アドバイザー	「要改善」	県内の大学や短大が連携して様々な協力事業を行い、これを県民に循環することは、非常に有意義なことだと思う。ただし、参加者の中に60才以上の割合が非常に高い。時間的に余裕ができた世代にとって、興味を持ち、教養を高めることができる良い機会になっていることが窺える。しかし一方で、リカレント教育の効果や循環の結果を検証することができるのか。参加者の満足感や達成感となって実感する部分が多いのではないかと考えている。創立から約10年を経過し、運営も順調に経過しているのであれば、参加者に実費の負担を求めるなど、自主的な運営ができる体制にできないか。以上の検討を加えてさらに、事業の終期を設定する必要がある。